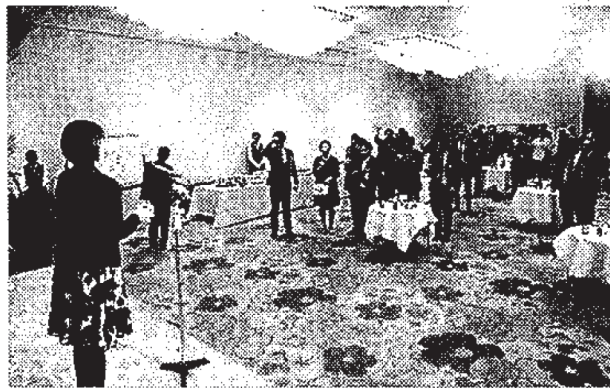


総合資格学院新潟・長岡校合格祝賀会

合格の喜び分かち合う



総合資格新潟支店（大場秀樹支店長）は8日、新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟で、同支店が運営する総合資格学院新潟・長岡両校の2017年度1・2級建築士と宅地建物取引主任者の合格祝賀会を開いた。合格者は多くの来賓に見守られながら、苦業をともにした学友らと資格取得の喜びを分かち合った。 Ⅱ3面参照
冒頭、大場支店長があいさつ

知識を知恵に昇華し飛躍を

し、「身に着いた学習の習慣は大きな財産。今後もそれを生かしながら、プロフェッショナルであり続けてほしい」とはなむけの言葉を贈った。

続いて、来賓の渡辺斉新潟県建築士会常務理事は「建築設計業が大きな転換期を迎える中、どうやって対応していくかも有資格者の責任」と述べた。

坂本忠志新潟県建築士事務所協会長は、高齢化と若手不足という業界の現状を説明し、「これから皆さんの時代になってくるので、志を大きく持つてほ

しい」とエールを送った。

1・2級建築士の学科講座を担当した小出一之講師は、「国家資格の取得で得た知識を知恵に昇華させて、さらに飛躍してほしい」と呼び掛けた。

乾杯、歓談を経て、合格者を代表して、野口一弥（1級建築士）、佐藤勇真（2級建築士）、紺谷智広（宅建）の3氏が資格取得までの道程を振り返るとともに、講師陣、スタッフを始めとする関係者への謝意、それぞれ抱負を語った。

今年度の1級建築士の合格者数は全国で3365人。そのうち2145人が同社の受講生だった（占有率63・7%）。

1級建築士合格者の話



星野達哉氏「仕事と試験勉強の両立は非常に大変だったが、講師、スタッフの方々の丁寧な説明、対応に支えられた。今後は業務範囲も広がっているの、従前以上に責任感を持って業務に臨みたい」



和田紗緒理氏「くじけそうなる時もあったが、仲間の頑張りや講師、スタッフの方々の熱意で、モチベーションを維持することができた。この経験を胸にさらなる研さんを積んでいきたい」

2018年1月10日
建設通信新聞
(新潟会場)